

第 5 回議会モニター会議(第2期記録)

- 日 時 令和 8 年 7 月 2 日 (木) 10 時～11 時 25 分
- 場 所 市役所 4 階 (全員協議会室)
- 参加者
 - 議会モニター 4 名 : 牧野泰二、今井和彦、近 恵子、小俣優美子
 - 議会運営委員 6 名 : 渡辺栄六、坂上清一、丸山孝博、渡辺宏行、天木義人
小野徳重
 - 正副議長 2 名 八幡元弘、森本将司
 - 司会進行 渡辺栄六
 - 発表 坂上清一
 - 記録 小野徳重

【次第】

1. 開会
2. 議長あいさつ
- 3 議題
 - (1) モニター意見を反映した取組の発表
 - (2) 市議会モニター活動に関するアンケート結果の公表
 - (3) 意見交換
 - ①モニター業務に携わってからの変化について
 - ②モニター業務に携わった感想について
- 4 閉会 副議長あいさつ

意見交換

【モニター業務に携わってからの変化について】

【モニター業務に携わった感想について】

○モニター

傍聴には最初の 2 回しか来ていない。活気がなく議会との間に壁があるように感じられた。中学生のアンケートのようにどこかで会ったらお話ししてみたいと言う雰囲気がいまいち足りないような気がする。

○モニター

議会モニターに参加する前まではあまりホームページを見ることはなかったし傍聴をすることもなかった。動画配信されていることも初めて知った。当初の動画は長くて見たいところを探すのに大変であったが、その後改善されチャプターが付いて非常に環境は良くなった。

以前は知人と議会とか政治の話をすることは無かったが、モニターに参加して自分の関心が地域の問題や議員の意見、答弁が気になるようになった。

若い人たちがもっと興味関心もってもらえるようにしていただければと思う。

○モニター

頼まれて引き受けたという経緯でそれほど関心があったわけではなく、議会だよりも目を通すこともなかったが、責任感で目を通すことによって何が話題になっているかを知るきっかけになった。今後も議会に興味を持ち続けたいと思う。

お願いになりますが、委嘱時にモニターとしてどのように関わりどの点に注視し、議会傍聴はどの点に留意して聴くかなどを記したフローチャートがあれば議会がもっと身近に感じることができると思う。

○モニター

モニターになって、ホームページを見るというチャンスは何回しかなかった。

例えば学習スペースの提供等、必要とする層へ学校等を通じた事前の周知でHPの閲覧を促す工夫が必要ではないか。議会で何かお知らせやイベント等の記事を掲載したなら、私たちが見るのを待っているのではなく、見てくださいます的な周知をしていただければもっと見るだろうし、その内容を広げていける力になったんじゃないかと思う。

○委員長

先ほどご意見を伺いましたが、まだ時間もありますのでそれぞれのご意見を踏まえてでも結構ですが、感想とか気づいたことがありましたらお願いします。

○モニター

各地区から様々な要望事項が上がり、市へ要望するが予算の関係もありなかなか聞き入れてもらえないが、議員を通してお願いするとスムーズにやってくれるような気がする。議会でその地区の要望をスムーズにやれるように変わったらいいと思う。

⇒委員長

そういったことがスムーズにいければというご意見がありましたが、これに関して委員の皆さんからご意見を頂ければと思います。

⇒議員

区長が直接担当課長に電話あるいは面談して、すぐに対応できるケースというのは、係長クラスの判断で予算の枠内に余裕がある場合であり、その時は割と早く進む。これが補正を伴う内容であれば年 4 回の本会議に合わせて対応するので難しい。議員に言ったからと言って議会から市に圧力をかけて優先させているわけではない。

⇒モニター

個別の要望は課長ではなく担当職員に伝えているが、それは課長まで伝わっているという認識である。区長会を通じて、個別要望は出していないが、区長会議の場では「個別相談は窓口へ」と促されるため、集落固有の課題を公の場で話しにくい。

○モニター

グラフを見ると 2024 年度（上段）は、視聴者数は少ないものの、2025 年度（下段）は特定の日には 1,400 人や 800 人と、視聴回数が突出して伸びている箇所がある。このグラフの大きな伸びにはどのような背景があったのか、説明をお願いします。

⇒事務局

まず、上段の 2024 年度のグラフで、9 月は、当時話題になった「展望台を建設する構想」について、議会で一般質問がなされた際、非常に注目を浴びて視

聴回数が増えたものである。また、3月の大きな山は、市長の所信表明に対する会派代表質問や一般質問が行われた時期であり、その年度の市の方針に対して市民の関心が高まったためと捉えている。

次に下段の2025年度についてですが、これは、当時「生涯学習施設」の在り方について新聞等で報道され、市民の間でも大きな話題となっていた時期である。そのタイミングで施設の在り方に関する一般質問が行われたため、これまでにないほど視聴回数が大きく伸びたものである。

○モニター

モニターを選ぶ基準は何かあるのか。

⇒議会事務局

要綱では、市内在住の方で20歳以上（後で18歳以上に訂正）、公職についていない方であれば応募できる。

⇒モニター

地区から何名という基準は？

⇒議会事務局

地区別に何名という基準は設けていない。モニターを選考するに当たり、最初は公募したが、応募する方が少なかったので議員に各地区から選出するようにお願いした。

⇒委員長

モニター制度の開始当初は、広く公募を行っていた。しかし、公募だけでは応募してくださる方が非常に少なく、定員を満たすのが難しい状況になった。そのため現在は、各地区の議員に依頼し、知人等へお声がけをしていただいている。その際、中条、乙、築地、黒川の各地区でモニターの人数に大きな偏りが出ないように、地域的なバランスには十分に配慮して選考を行っている。

○委員長

議員の方からも何か意見を出していただきたいと思う。

⇒議員

市役所ロビーのモニターで本会議中継を視聴していた市民から休憩時間の間モニター画面は固定した画面なので面白くないという声があった。他の議会を

見てみると、阿賀野市では観光PR等を休憩時間中流している議会もあるので、胎内市議会でも取り入れることができれば、よそから来た人にもPRできるという市民からの意見がある。

⇒議員

議会として外へ情報発信をしているつもりであるが、なかなか市民に伝わりにくい。これは議会に対してあまり関心がない人が多いと思われるので、こちらの発信力が足りないのか、あるいは何をどうアピールしていけばいいのか、はっきり見えてこない部分がある。モニターの任期が終わってからでも、私たちの足りない部分についてぜひご意見をいただきたいですし、それを補っていければと考えている。

⇒議員

議会のやっていることを皆さんに知ってもらうため、開かれた議会ということで議会モニター制度を設け、さらには議場コンサートを開催し、いろいろと努力をしている。モニターも各地区からお願いすることは理想だが公募しても集まらない。先程お話があったように各地区の議員にお願いしているのが現状である。今まで担っていただいた皆さんにはこれからも多くの方々に議会のことを伝えていただくようご協力をお願いします。

⇒議員

議会が終わると一般質問の内容を自分で執筆(字数制限あり)して、議会だよりに掲載するが、なぜ議員はせっかく質問したのに何でもっと書かなかったんだとご指摘をいただくことがある。自分たちが判断して記事をまとめるが、前向きな答弁であれば前面に出すが、まるっきりちょっと離れた答弁だと掲載順位が下がる。実は『その他』として端に追いやった質問こそ市民が知りたかったことだったりして、その辺の判断の難しさを常々感じている。

○モニター

議会が行われていることを防災行政無線で流しているのか。市の行事だと長く流れるが、議会も定例会及び議場コンサートなどの開催日時等を放送できないか。

⇒委員長

議会の予定とか日程、そして、議場コンサートの事前周知については、これまでホームページとか市報、それから議会だより等でお知らせはしていた。

防災行政無線でも出来ないかとのご提言をいただきましたが、この辺については事務局長どうですか。

⇒事務局長

市民との意見交換とかは年に一度というところで、多くの市民の方に集まっていたく形でお知らせしていますが、定例会は年4回、その中でも本会議が4回開催されるところであります。果たして防災行政無線がいいのか議会運営委員の皆さんと協議検討が必要なのかなと思っています。

○委員長

ご意見に関しては議会運営委員会でも検討させていただきます。他にございますか。

○モニター

今お話にあった議会日より、全部載ってないのですか。

⇒委員長

一般質問は議員の質問と執行部の答弁を含めて1時間でかなり深掘した質問をやっている。紙面上の都合で皆さんに知っていただきたいという内容を取り上げ紙面掲載している。全部載せることは経費等の面で厳しいのでご理解をいただきたい。

○モニター

議会モニターも議会傍聴に人が集まらないのは日中仕事をしているからであり、全部の回でなくてもいいが、議場コンサート等のイベントは土日とかに開催すれば人が集まるのではないかと。また、議会モニターを公募する時にいろいろ書いてあるが、ちょっと言葉が難し過ぎてそのところへ入るってすごく勇気がある。もう少しハードルを下げると分かりやすく、人が集まるのでは。

⇒議長

行政とか議会は固くてとっつきにくいというのが市民の大多数の人が思うところであり、興味はあるけれど、どこからどのように入ればよいのか分からないのが正直なところだと思う。市民との意見交換や女性団体との意見交換は以前まで平日に開催していたのを土日開催するなどその都度試行錯誤しながら取り組んでいる。ただ、土日に変えてみても、2、3回やるとまた人数が減ってしまったりと、なかなか「ここなら間違いない」という正解が見つからないのが実

情である。また、先ほどおっしゃったように、このような会議だから身構えて話すのではなく、世間話や立ち話のような感覚で、そして本音でやり取りできるような関係を築いていけるのが、一番いいと思う。

⇒委員長

市民との意見交換会、議場コンサート、議会の傍聴もそうですが、どうしたら多くの方に参加していただけるか検討させていただきたい。

貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。